

「治験」という言葉を聞くこと
 のようなことを思い浮かべます
 か。最新の良い治療が受けられる
 に違いないと考える人もいるでし
 ょう。反対に、人体実験にされる
 のではないかと不安を感じる方も
 いるのではないのでしょうか。

治験とは、製薬企業または医師
 が、新しい薬剤や治療法の承認を



徳島大学病院 臨床試験管理センター
 軒原 浩 特任講師

目指して行う臨床試験（研究）で
 す。新しい薬剤や治療法の開発で
 は、動物実験などの非臨床試験で
 さまざまな情報を収集しますが、
 最終的には人に対して検討する必
 要があります。治験は、非臨床試
 験で期待された薬剤を実際に患者
 さんに試していただき、本当に患
 者さんに有効かつ安全であるかを
 確認するためにあります。

難治性の病気など、現在の治療
 で満足できる結果が得られていな
 い病気に対しては、より良い治療
 を開発するために、治験の実施が
 必要になります。治験を実施し、
 期待通りの結果が得られる場合も
 あれば、期待外れ（有効な治療で
 なかった）の場合もあります。治

験に参加することにより未来の有
 望な治療を先取りでき、参加した
 患者さんにメリットがある場合も
 あります。

一方で、新しい治療が必ずしも
 よい治療というわけではないの
 で、参加した患者さんが得られる
 メリットがほとん
 どないこともあります。
 治験参加は、
 治験の内容に関し
 て医師から十分に
 説明を受け、患者
 さんの自由意思で
 決めるものです。

治験 未来の患者さんへの贈り物

治験の一番の目
 的は、未来の患者
 さんへ新しい治療
 や情報を届けるこ
 とです。過去の患
 者さんが治験に参
 加し、そこで得ら
 れた情報をもとに
 現在、私たちに薬
 剤が投与され、治
 療が実施されてい
 ます。治験を行っ
 ている研究者は目
 の前の患者さんに
 十分配慮しつつ、
 将来の患者さんも
 見据えています。
 医療は未来につな
 げてゆくものであ
 り、治験への参加
 は、未来の患者さ
 んへの贈り物と言
 えるかもしれませ
 ん。

昨年末から企業
 ではなく、徳島大
 学病院が主として
 実施する医師主導治験「高用量E
 0302の筋萎縮性側索硬化症に
 対する第Ⅲ相試験」が始まりまし
 た。この治験に関わるスタッフ全
 員で参加された患者さんの気持ち
 を未来へ確実に届けたいと思っ
 ています。